



小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

脈の数が変わるのなぜなの、カメにも脈はあるの



脈は、体の調子や動き方などでよく変わるもんさ。^{しん}心
臓^{ぞう}をもつ動物は、カメでもなんでも脈があるさ。

手首や首筋^{くびすじ}を指でさがすと、トクツ、トクツという脈はくを感じるところがあります。これは、心臓^{しんぞう}がぎゅっとちぢんで、血液を血管に送り出すとき、血管がふくらむのを感じているのです。

心臓は、酸素や栄養を運ぶ血液を、全身に送り出すポンプの役目をしています。心臓がちぢんだとき血液をおし出し、もとの大きさにもどるとき全身をまわってきた血液を心臓に吸いこむことで、体内に血液をじゅんかんさせているわけです。

心臓がちぢんだときおし出す血液の量は、およそ決まっていますから、激しく^{はげ}体を動かしたりして、体内にたくさんの酸素が必要なときは、おし出す回数をふやして血液をたくさん送ることになります。すると、脈はく^{はく}の数はふえるということになります。きんちょうしたり、おどろいたりしたときも、脈はく数はふえます。

脈はくをはかるには、運動やおふろのすぐ後などは、さけましょう。

脈はく数は、体の大きさ、動物の種類によってもちがう

健康な大人の男の人の脈はく数は、1分間に約70、女の人では約75～80、10才の子どもの80～90ぐらい、赤ちゃんなら130ぐらいといわれています。体が小さいと心臓も小さいため、血液をおし出す回数がふえるのでしょ。

動物の種類による1分間の脈はく数を見てみると、ゾウは25～40ぐらい、ウマは約34～40、体の小さいスズメは745～800ぐらい、カメは約10、魚のフナは40ぐらいという記録があります。

カメの脈は、どこではかるのかな。
ちょうしん器を当てると、ききとれるのかな。



もっと知りたい人へ：「運動した後は、なぜ心ぱく数が上がるの」も見てみよう。